

大陸棚斜面漁場開発調査報告

佐野 茂・永井 浩爾・川口 哲夫

水産庁では昭和53・54年度に日本海で大陸棚斜面未利用資源精密調査を実施したが、著者らはこの調査に参加し、隠岐堆、俊鷹堆等で建て縄釣りの試験操業を担当した。¹⁾²⁾ 現場ではその後も引き続きこの試験を県単独事業として実施しているが、ここでは昭和59年までの経過の概要について報告する。

I 試験の経過

昭和56年度

漁具・漁法：使用した漁具は図1に示した建てはえ縄である。およそ2時間おいて揚縄した。

餌：冷凍スルメイカをタンザクに切ったもの及び小中羽マイワシを丸のまま使った。

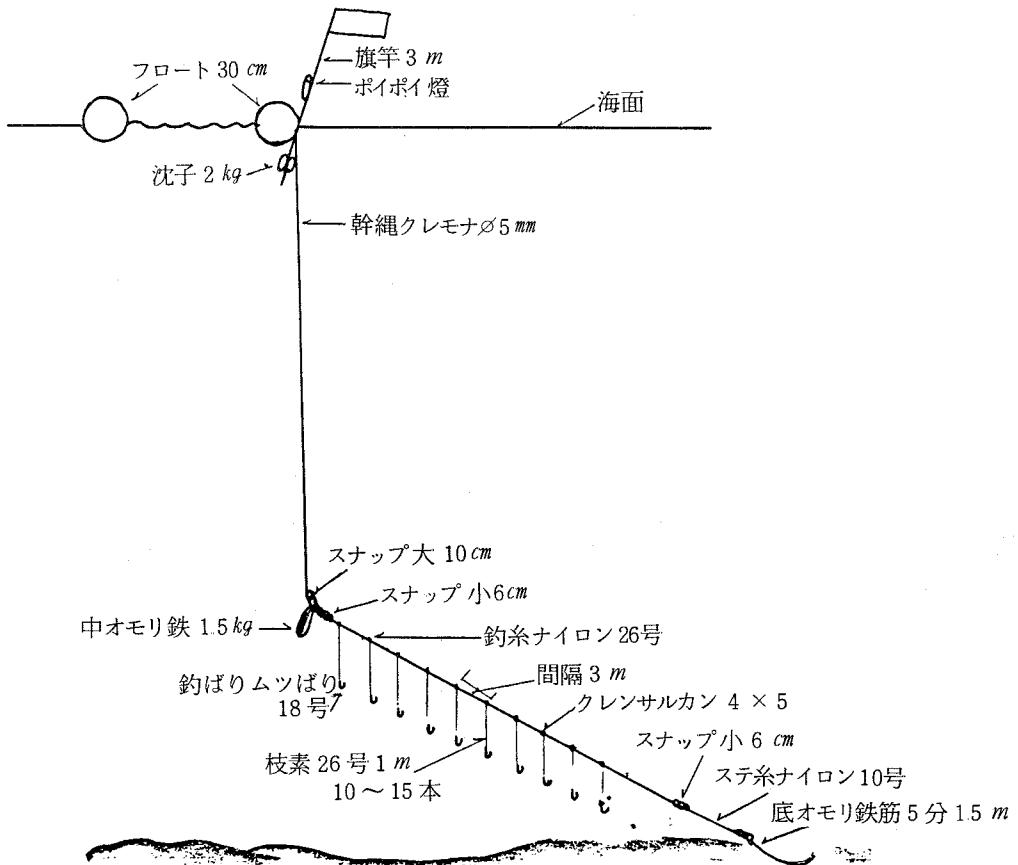


図1 建て縄(タル流し)漁具

操 業 結 果

1. 俊鷹堆漁場

昭和53年および54年の調査によって、この堆はヤナギノマイ及びスケトウダラの好漁場であることが判明している。本年は9月17～18日に6回操業したが、韓国船が多く操業が極めて困難であった。魚探で魚群を確認した後、投縄したが、釣獲率は表1のとおり18～78%であった。

表1 俊鷹堆での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物(尾)				釣獲率
							スケトウダラ	ドブカスベ	アサバカレイ	シイラ	
1	56. 9. 17	07:40～10:10	250 ～ 340	B	125	A・B	54	1			44%
2	" "	12:15～14:00	225 ～ 260	"	150	"	98		1		67
3	" "	15:50～17:50	300 ～ 310	"	125	"	23				18
4	" 18	07:50～10:10	230 ～ 245	"	"	"	93			4	78
5	" "	11:20～13:20	230 ～ 245	"	"	"	87				70
6	" "	15:12～17:17	215 ～ 250	"	"	"	30			2	24

注) 漁具: A-たて縄(タル流し) B-たてはえ縄

餌: A-冷凍スルメイカ B-生・小中羽マイワシ C-冷凍小羽マイワシ

D-冷凍小羽マイワシの塩蔵 E-生カタクチの塩蔵 F-中羽マイワシの塩蔵

G-生豆サバ

魚群の濃い地点では78%の釣獲率でスケトウダラが漁獲されており、53年のタル流し釣獲率平均10.2%、最大57%にくらべると格段の相違がある。

魚体測定の結果、スケトウダラは53年9月に漁獲したものとほぼ等しい体長組成であって、魚体の大きなものは生殖腺の熟度が進んでおり、卵巣100g以上のものもあった。

表2 スケトウダラの魚体精密測定結果

56.9.17.18 採集俊鷹堆

No.	又長(計算値)	体長	体重	性別	生殖腺重量	肝臓重量	耳石年輪	生殖腺/体長 ³ ×10 ⁵
1	74.1 g	69.0 cm	2,930 g	♀	170 g	235 g	7	54
2	58.5	54.5	1,380	"	64	106	4	39
3	58.3	54.3	1,130	"	43	71	4	27
4	67.7	63.0	1,410	"	52	82	4	21
5	43.0	40.0	425	"	15	28	3	23
6	62.3	58.0	1,520	"	70	100	4	36
7	45.1	42.0	560	♂	34	24	3	46
8	44.3	41.2	605	♀	41	39	3	59
9	46.2	43.0	625	"	36	41	3	45
10	50.8	47.3	828	"	30	60	4	28
11	39.7	37.0	355	♂	24	11	3	48
12	37.6	35.0	342	♀	9	23	2	20
13	42.1	39.2	585	"	34	35	3	57

注) 体長=尾又長÷1.0741

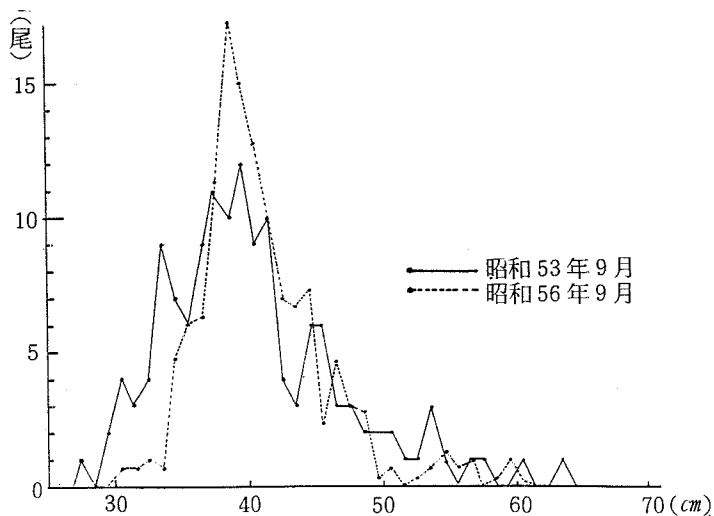


図2 スケトウダラの体調組成

2. 隠岐海峡漁場

隠岐島と島根半島の中間、ヨコ瀬の近辺で10月6～7日に5回投縄した。まき網船団が多く、操業が難しい。魚探で堆を確めて投縄した。

表3 隠岐堆での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	鈎数	餌	漁獲物 (尾)				釣獲率
							アオウタ	カサゴ	ウスメシ	アヤマカサゴ	
7	56. 10. 6	12:05 ~ 14:30	72 ~ 75	B	125	A・C				1	0.8%
8	" "	12:25 ~ 15:20	76 ~ 77	"	"	"	1	1	1		2.4
9	" "	16:22 ~ 17:30	70 ~ 78	"	"	"		2		3	4.0
10	" 7	08:50 ~ 11:00	80 ~ 81	"	250	"		1		2	2.4
11	" "	13:10 ~ 16:00	70 ~ 79	"	125	"		1			0.8

釣獲率は極めて低いが魚種はハタ科・カサゴ科等ですぐれている。

餌はスルメイカと小中羽イワシでは釣獲率に大差ないと判断したが、スルメイカの方が落ちが少ない。

昭和57年度

漁具・漁法：前年同様、建てはえ縄を操業した。

餌：凍結小羽マイワシを解凍して使用した。2次航海以降は解凍後、数時間ふり塩して塩漬し、脱水したものを使った。

操業結果

1. 隠岐堆漁場

昭和53年および54年の調査によって、この堆は劣悪な漁場と評価されている¹⁾²⁾。しかし本年7月に探査したところ、300 m以浅の場所に魚群の影像が認められたので8月23日～26日に3回投縄を試みた。

200 m

昭和 57 年 7 月 13 日 11 時 00

N 36° 42. 4
E 134° 08. 9

300 m

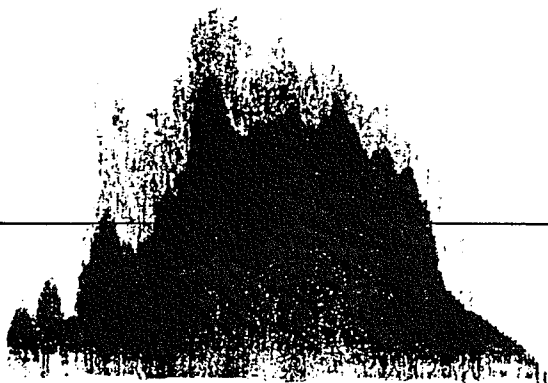


図3 隠岐堆西端の魚群(スケトウダラ)

釣獲率は表3に示した如く、15～34%であったが、冷凍イワシを解凍して餌に使ったため魚体が軟く、投縄時に2～3割も餌が落ちたので、実際の釣獲率は21～49%程度と推定している。漁獲物はすべてスケトウダラであるが、56年、俊鷹堆での実績にくらべると約 $\frac{1}{2}$ 程度で魚群がうすい。体長は22～56cmで35～43cm主体、俊鷹堆にくらべるとかなり小さい。(俊鷹堆でも54年12月には31～39cmの小型魚となっていた。季節的な変化も考えられる。)

表4 隠岐堆での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物(尾)	釣獲率
							スケトウダラ	
12	57. 8. 24	09:50～12:10	328～450	B	125	C	19	15%
13	" "	15:30～16:35	293～400	"	75	"	17	23
14	" 25	09:45～12:10	347～400	"	125	"	42	34

2. 隠岐島周辺漁場

隠岐島周辺の小規模な瀬をさがして9月16～18日に2地点で投縄した。

表5 隠岐島周辺での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	鈎数	餌	漁獲物(尾)			釣獲率
							スケトウダマ	アカカレイ	サバメ	
15	57. 9. 16	16:20～18:35	176	B	125	D	0	0	0	0%
16	" 17	12:15～15:25	180	"	225	"	2	1	3	2.7

島の近辺にある瀬はよく利用されていて、他所から入漁する予地がない。利用頻度の少ない漁場では表に示したように漁獲が少い。

3. 隠岐海峡漁場

ヨコ瀬で9月28～29日に2回操業している。

表6 隠岐海峡(ヨコ瀬)での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	鈎数	餌	漁獲物(尾)				釣獲率
							マンタ	キンメダイ	カサゴ	アヤマカサゴ	
17	58. 9. 28	13:45～16:00	70～79	B	175	D	2	1	2	2	4.0%
18	" 29	08:35～10:30	88	"	175	"	0	0	0	0	0

前年と同様、この漁場は魚種はよいが、釣獲率は極めて低い。

昭和58年度

漁具・漁法：建て縄(タル流し)を操業した。漁具の構造は図4に示す。漁法は53, 54年と同様である。

餌：塩蔵カタクチ、塩蔵マイワシ、冷凍イカのタンザク切り等を使った。

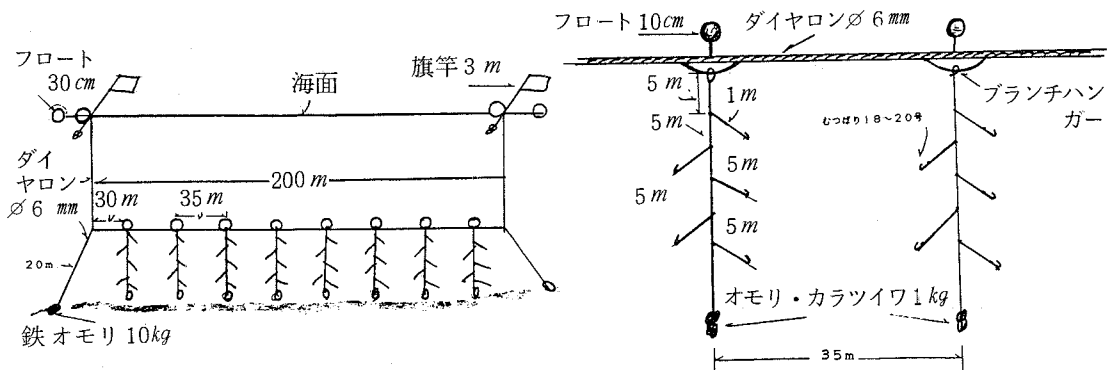


図4 建て縄漁具

操業結果

1. 隠岐海峡漁場

6月23～25日および7月21日にのべ4回操業した。漁獲状況は下記のとおりであった。

表7 隠岐海峡（ヨコ瀬）での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物（尾）										釣獲率			
							ヒメ	キメダイン	シイラ	マサバ	マアジ	ムツ	アハオタ	マハタ	カサゴ	ウメバスル		アカヤサメゴ		
19	58. 6. 23	17:10～18:20	90～95	A	100	E	1				1									3.0%
20	" 24	14:55～19:00	—	"	"	"	2	7		1		2	1	1			3	1		18.0
21	" 25	05:10～07:00	82	"	"	A							1							1.0
26	" 7. 21	16:15～17:06	82	"	60	F	1		1								2			6.7

餌は冷凍スルメイカのタンザクと油ヤケして酸敗臭の強い塩蔵マイワシ、塩蔵カタクチイワシを使ったが、いずれも肉はよく締っており、餌落ちは少かった。接近した場所で投縄したにもかかわらず、イカの餌にくらべて塩蔵イワシの方が釣獲率がすぐれているように感じたので、この後からは塩蔵イワシを主として餌に使うこととした。この漁場は隠岐海峡の中央部に当たるため水深が浅く、100 mに満たない。漁獲物は多様であるが、キンメダイが漁獲されたことが特徴の一つであった。

2. 日御碕西沖漁場

この漁場では6月27日及び7月8日に各1回ずつ操業した。漁獲物はヨコ瀬とはほぼ同様な魚種であるが、釣獲率は大であった。

表8 日御碕西沖での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物（尾）							釣獲率	
							マサバ	エオピチア	チビキ	ムツ	カサゴ	キメツバネ	ウメバスル		アカヤサメゴ
22	58. 6. 27	17:00～18:30	136～142	A	100	E	1	1				8	2	3	15.0%
25	" 7. 8	18:30～19:40	113	"	"	F			4	7	2			6	19.0

3. 浜田沖漁場

6月28～29日にネタキグリで2回投縄した。ヨコ瀬や日御碕沖と類似した魚種が漁獲されたが、釣獲率は日御碕よりもやや大であって3漁場の中では最も魚群が濃厚であった。

表9 浜田沖(ネタキグリ)での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物(尾)								釣獲率	
							トザラメ	マサバ	メダイ	チビキ	アマカツ	マハタ	キメツバネ	ウメバズル		アカヤサメ
23	58. 6. 28	16:27～ 18:15	130	A	100	E		2	5	13	1	2	2	1	19	45.0%
24	" 29	06:24～ 07:45	134	"	"	"	10	6		7					1	24.0

昭和59年度

漁具・漁法：建てはえ縄と建て縄(タル流し)を併用した。

餌：中羽マイワシおよび小羽マイワシを塩蔵脱水して油ヤケ臭の強いものを使用した。また生豆サバも使った。

操業結果

1. 隠岐島周辺漁場

9月21日および10月8日に各1回投縄した。表に示したように釣獲率が低く、魚種も少ない。

表10 隠岐島周辺での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物(尾)				釣獲率
							アジ	シイラ	キガツネ	マダツイ	
31	59. 9. 21	—	—	A	150	F	8	3	1	1	8.7%
32	" 10. 8	18:00～ 19:30	73	"	"	"	1				0.7

2. 日御碕西方漁場

6月12～13日に2回投縄した。漁獲物はアヤマカサゴとウスメバルで魚種が少く、58年の操業結果にくらべて釣獲率が極めて低かった。

表11 日御碕西沖での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物(尾)		釣獲率
							ウメバルス	アカサゴメ	
27	59. 6. 12	18:20～ 19:00	110～ 115	B	225	F	1	10	4.9%
29	" 13	16:50～ 18:30	121～ 129	"	175	G		2	1.1%

3. 浜田沖漁場

ネタキグリで6月13日と7月12日および10月24日に各1回ずつ計3回投縄した。

表12 浜田沖(ネタキグリ)での操業成績

操業次	年月日	時刻	海深	漁具	釣数	餌	漁獲物(尾)										釣獲率
							トザ ラメ	シイ ラ	マサ バ	チビ キ	ム ツ	アム カツ	ア ラ	マ ダイ	ウメ ハ スル	アカ ヤ メ ゴ	
28	59. 6. 13	16:50～ 18:35	125 129	B	250	F			5			4	1		5	7	8.8%
30	" 7. 12	17:20～ 19:20	125 131	"	175	G					2					2	2.3%
33	" 10. 24	17:10～ 18:40	124	A	150	F	1	1		2	4		1	1			6.7%

58年の操業時と同様に漁獲物は多種類であるが、釣獲率はかなり低い。しかし本年度、他漁場での釣獲と比較すると、よい漁場であることがわかる。

Ⅱ 考 察

昭和53年から引続き実施している建て縄釣り（タル流し）および建てはえ縄について、上記の操業結果をもとに若干の考察を試みたい。

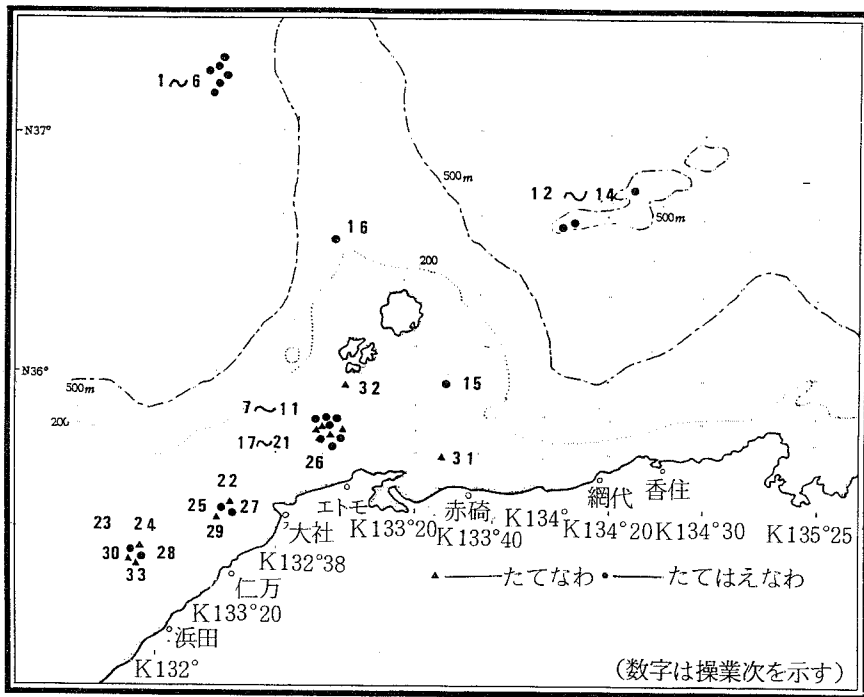


図5 操業位置

1. 漁場の特徴

図5には1次から33次までの操業地点を図示した。これらを下記の6海域に分けて、それぞれの海深と海底地形、ならびに漁獲物の特徴を表示すると次表となる。

表13 漁場の特徴

漁場	水深		魚種	釣獲率	特徴
	最浅	操業点			
後鷹堆	145 <i>m</i>	215 ~ 340	ヤナギノマイ・スケトウダラ	18 ~ 78	150 <i>m</i> 以浅はヤナギノマイ 以深はスケトウダラ。起伏 がはげしい。隠岐堆に次ぎ 広い。
隠岐堆	259	293 ~ 450	スケトウダラ	15 ~ 34	最も広い。6 ~ 8月にスケ トウダラが滞留する。
ヨコ瀬	—	70 ~ 95	ヒメ・キンメダイ・ムツ・ アオハタ・マハタ・カサゴ・ ウスメバル・アヤマカサゴ	0 ~ 18	起伏にとぼしい。キンメダ イが特徴。
日御碕西沖	110	110 ~ 142	エチオピア・チビキ・ムツ・ カサゴ・キツネメバル・ウス メバル・アヤマカサゴ	1.1 ~ 19	ヨコ瀬より深く、広い。堆 が数箇所にて点在する。
ネタキグリ	122	124 ~ 134	トラザメ・メダイ・チビキ・ ムツ・アカムツ・マハタ・ア ラ・マダイ・キツネメバル・ ウスメバル・アヤマカサゴ	2.3 ~ 45	深さや形状は日御碕に類似 魚群は最も濃厚、沿岸域の 堆では最大。

これら6海区の漁場は漁獲物の種類から見ると、更に次の2通りに大別することが出来る。その一つは沖合の俊鷹堆と隠岐堆であり漁獲物は主としてスケトウダラである。

他は沿岸域の諸漁場であって、主要な漁獲物はカサゴ科とハタ科の多様な魚種となっている。更に漁場の水深と魚種の間接関係を見ると、すでに53年の調査時に報告したとおり、俊鷹堆においても頃上部の水深140 ~ 180 *m*の地点ではヤナギノマイが漁獲されているが、これよりも深い地点ではスケトウダラ・マダラ等が漁獲されていることによってもわかるとおり、カサゴ科、ハタ科等高級魚は水深150 *m*以浅の漁場で期待されるものの、これより深い地点ではスケトウダラが主であってカサゴ・メダイ・アカムツ等の高級魚は期待できないことがわかる。各漁場の特徴を個別に見ると次のとおりである。

ア、俊鷹堆

他の漁場にくらべて魚群が最も濃厚であるが魚種はスケトウダラだけである。産卵にはほど遠い9月に大型魚で卵巣の大きなものがあるが、季節が進むとこの群が去って小型魚と入れ換わるのではないかと思われる。

イ、隠岐堆

従来の調査では魚群が全く見られなかったが、今次の調査によって7 ~ 9月には浅い部分に限って魚群の滞留することがわかった。釣獲率は俊鷹堆にくらべて約 $\frac{1}{2}$ である。

ウ、隠岐島周辺漁場

利用頻度の小さな瀬は規模が小さく、めばしい漁獲がない。

エ、ヨコ瀬

漁獲物は多種類で高級魚が多いが、魚群はうすい。

オ、日御碕西沖

ヨコ瀬とほぼ同様に魚種は多様だが、ムツ・カサゴ・アヤマカサゴが主なもので、ヨコ瀬よりも魚群は濃い。

カ、ネタキグリ

漁場の環境や漁獲物は日御碕沖に類似するが、釣獲率は沿岸漁場のうちで最大であった。

2. 餌の比較

次に餌について若干ふれておきたい。

島根県八束郡美保関町万原ではアブリカと呼ばれる磯魚用の餌を発売し、全国の釣り、縄漁業者から好評を得ていた。製法は企業秘密とされて詳細は不明であるが、スルメイカ又はシロイカを開いて半日、天日乾燥する。半乾き状のイカをイワシ油とその他の魚油数種を混ぜ合せたものの中に漬け込み、数カ月後、腐敗様臭気を発するようになったものを餌として使用するといわれている。製法の大筋は上記のとおりと思われるが、魚油を使う点が興味深い。魚油は不飽和脂肪酸によって構成され二重結合が多い。大気中ではこの部分で自動酸化を受けて開裂し、数分子のカルボニル化合物、あるいは酸、アルコール等を生じて酸敗し、いわゆるアブラヤケの性状を呈するに至る。

脂肪酸は通常魚油で、 $C_{16} \sim C_{22}$ 程度が主体となっているから、自動酸化によってこれが2分乃至3分されると、生じるカルボニル化合物等は、炭素数が原脂肪酸の数分の一程度の低分子となる。 $C_3 \sim C_9$ の揮発性アルデヒドには魚類を誘引する性質があり、強烈な悪臭を放つアブリカが釣りの餌としてすぐれた作用を呈するのは、ここに生じた魚油の分解産物、あるいはイカ肉腐敗物中に魚類の誘引物質が含まれているためと推定されている³⁾。

この建て縄の試験中に餌は表1に示した7通りを使用した。このうち小羽イワシ特に解凍したものは魚体が軟柔で餌落ちが甚だしい。対策としてはこれを塩蔵し脱水すれば肉が締って落ち難くなることがわかった。ここに脱水した餌は更に十数日冷蔵しておくともアブラヤケを生じ酸敗臭が強くなる。対照と厳密な比較はしていないが、これまでの操業結果を見ると、この脱水レアブラヤケした餌は落ち難いだけでなく、アブリカと同様に、誘引性を呈するためか釣獲率も向上するように思われた。少なくとも高価な冷凍イカにくらべて、塩蔵、アブラヤケした廉価な小羽イワシが同等以上の釣果をあげる事がわかった。

Ⅲ 文 献

- 1) 昭和53年度大陸棚斜面未利用資源精密調査報告書，昭和54年1月，水産庁研究部他。
- 2) 昭和54年度大陸棚斜面未利用資源精密調査報告書，昭和56年1月，水産庁研究部他。
- 3) 梅津武司：化学物質と魚類の行動。日水誌，32巻，4号，1966年。

表14 スケトウダラの体長組成

(俊鷹堆 56.9.17～18 および隠岐堆 57.8.24～25)

階級	俊鷹堆 (又長)								階級	隠岐堆 (体長)				
	1	2	3	4	5	6	計	12		13	14	計	備考	
32 cm				1	1		2	22 cm		1		1	尾又長/体長= 1.0741	
33				1	1		2	25		1		1		
34		2		1			3	32	1			1		
35		1		1			2	34			1	1		
36		1	1	2	4		8	35		1	3	4		
37	2	2		2			6	36	1	1	7	9		
38	2	5	1	2	8		18	37	3		5	8		
39	1	9		5	2	2	19	38	3	5	5	13		
40	6	7	2	7	8	4	34	39	7		3	10		
41	8	13	4	15	9	2	51	40	2	1	5	8		
42	5	11	4	10	11	4	45	41			3	3		
43	7	10	3	6	7	5	38	42	1	3	6	9		
44	8	4	3	6	9	1	31	43		2	2	4		
45	2	8	3	4	2	2	21	44						
46	2	5		6	3	4	20	45						
47	4	4	1	5	6	2	22	46	1		1	2		
48		1		3	2	1	7	47		1		1		
49	4	7		2	1		14	48						
50		4		4	1		9	49						
51	1	1		2	2	1	7	50						
52					1		1	51						
53		1			1		2	52		1		1		
54			1		1		2	53						
56				1			1	54						
57		1		1			2	55						
58				2	1	1	4	56			2	2		
59				1	1		2							
60	1				2		3							
62				1			1							
63	1				2		3							
64		1					1							
66					1		1							
68				1			1							
71				1			1							
計	54	98	23	93	87	29	384	計	19	17	42	78		

表15 スケトウダラの魚体精密測定結果

(57.8.24~25 採集隠岐堆)

No.	体長	体重	又長(計算値)	性別	生殖腺重量	胃内容重量	種	類
1	36.4cm	454g	39.1 cm	♂	51.8 g	g		
2	37.2	390	40.0	♀	12.8			
3	33.2	326	35.7	〃	12.2			
4	40.0	529	43.0	〃	21.7	4.7	テミス	
5	39.2	514	42.1	〃	10.2			
6	40.0	510	43.0	〃	16.6	1.9	ホタルイカ	
7	38.4	470	41.2	〃	17.0	1.3	〃	
8	36.0	384	38.7	♂	33.5	5.0	〃	
9	40.2	576	43.2	♀	40.6	22.8	ホタルイカ・テミス	
10	36.4	415	39.1	♂	38.3	4.9	ホタルイカ	
11	37.4	381	40.2	♀	15.7	5.0	ホタルイカ・テミス	
12	46.0	750	49.4	〃	52.3			
13	41.8	549	44.9	〃	26.2	6.5	ホタルイカ・テミス	
14	38.5	488	41.4	♂	25.6	9.0	〃	〃
15	41.0	586	44.0	♀	26.4			
16	39.0	600	41.9	〃	29.8	6.5	不 明	
17	40.0	493	43.0	〃	14.6	5.0	ホタルイカ・テミス	
18	41.6	702	44.7	〃	26.1	10.0	〃	〃
19	42.2	584	45.3	〃	31.7			
20	43.8	802	47.0	♂	119.0			
21	35.4	336	38.0	〃	9.3	2.5	テミス・ホタルイカ	

表16 隠岐島周辺漁場の漁獲物

操業次	魚 種	体長	体重	操業次	魚 種	体長	体重	操業次	魚 種	体長	体重
16	スケトウダラ	37.2 ^{cm}	— ^g	31	キツネカツオ	41.0 ^{cm}	1,100 ^g	31	ア ジ	33.0 ^{cm}	450 ^g
〃	〃	46.8	—	〃	シ イ ラ	47.0	1,040	〃	〃	36.0	600
〃	アカガレイ	25.5	—	〃	〃	39.0	500	〃	〃	35.0	550
〃	サバフグ	23.7	—	〃	〃	31.0	290	〃	〃	40.0	720
〃	〃	22.7	—	〃	ア ジ	37.0	560	〃	〃	40.0	800
〃	〃	21.2	—	〃	〃	33.0	430				
31	マツダイ	27.0	505	〃	〃	37.0	600				

表17 ヨコ瀬漁場の漁獲物

操業次	魚種	体長	体重	操業次	魚種	体長	体重	操業次	魚種	体長	体重
7	アヤマカサゴ	19.2 ^{cm}	200 ^g	17	カサゴ	20.0 ^{cm}	— ^g	20	マサバ	30.0 ^{cm}	— ^g
8	アオハタ	28.0	500	"	"	20.0	—	"	ムツ	23.0	210
"	カサゴ	23.0	250	"	アヤマカサゴ	19.0	—	"	"	24.3	260
"	ウスメバル	22.3	200	"	"	19.5	—	"	アオハタ	24.3	350
9	カサゴ	20.4	300	19	ヒメ	16.8	90	"	マハタ	27.4	560
"	"	24.8	400	"	マアジ	34.5	350	"	ウスメバル	24.3	400
"	アヤマカサゴ	19.0	—	"	カサゴ	26.0	400	"	"	24.0	380
"	"	19.5	—	20	ヒメ	17.5	100	"	"	20.0	350
"	"	17.2	—	"	"	17.3	90	"	アヤマカサゴ	16.3	110
10	カサゴ	22.0	300	"	キンメダイ	26.2	590	21	アオハタ	26.0	480
"	アヤマカサゴ	19.2	—	"	"	25.5	550	26	ヒメ	19.0	—
"	"	18.2	—	"	"	25.2	500	"	シイラ	55.0	—
11	カサゴ	24.3	—	"	"	29.5	635	"	カサゴ	19.6	—
17	キンメダイ	22.0	—	"	"	26.0	600	"	"	23.0	—
"	マハタ	39.0	—	"	"	24.8	450				
"	"	30.0	—	"	"	27.5	630				

表18 日御崎西沖漁場の漁獲物

操業次	魚種	体長	体重	操業次	魚種	体長	体重	操業次	魚種	体長	体重
22	マサバ	25.0 ^{cm}	— ^g	22	アヤマカサゴ	17.6 ^{cm}	— ^g	25	ムツ	22.7 ^{cm}	— ^g
"	エチオピア	38.7	1,300	"	"	17.0	—	"	"	22.8	—
"	キツネメバル	19.8	—	"	"	15.5	—	"	カサゴ	16.7	—
"	"	14.3	—	25	チビキ	42.4	—	"	"	23.0	—
"	"	18.5	—	"	"	45.0	—	"	アヤマカサゴ	34.5	—
"	"	19.0	—	"	"	44.6	—	"	"	22.2	—
"	"	21.2	—	"	"	38.0	—	"	"	15.8	—
"	"	20.6	—	"	ムツ	22.8	—	"	"	20.8	—
"	"	20.0	—	"	"	21.6	—	"	"	20.3	—
"	"	18.4	—	"	"	25.5	—	"	"	19.5	—
"	ウスメバル	20.2	—	"	"	22.0	—				
"	"	27.6	—	"	"	22.4	—				

表19 ネットキグリ漁場の漁獲物

操業次	魚種	体長	体重	操業次	魚種	体長	体重	操業次	魚種	体長	体重
23	マサバ	30.0 ^{cm}	— ^g	23	アヤマカサゴ	22.0 ^{cm}	— ^g	28	マサバ	29.0 ^{cm}	210 ^g
"	"	32.0	—	"	"	23.7	—	"	"	26.0	200
"	メダイ	38.6	1,300	"	"	26.2	—	"	アカムツ	254	460
"	"	40.8	1,600	"	"	30.0	—	"	"	242	330
"	"	40.6	1,600	"	"	34.0	—	"	"	286	580
"	"	40.0	1,500	"	"	24.3	—	"	"	273	530
"	"	53.0	2,900	"	"	32.2	—	"	アラ	680	6,500
"	チビキ	52.5	2,300	"	"	26.2	—	"	ウスメバル	267	400
"	"	53.5	2,700	"	"	31.0	—	"	"	272	380
"	"	51.6	2,000	24	トラザメ	—	—	"	"	267	390
"	"	34.2	550	"	"	—	—	"	"	229	340
"	"	38.5	850	"	"	—	—	"	"	271	480
"	"	39.0	900	"	"	—	—	"	アヤマカサゴ	33.5	1,120
"	"	40.0	1,000	"	"	—	—	"	"	30.5	790
"	"	36.4	750	"	"	—	—	"	"	40.0	1,630
"	"	36.0	800	"	"	—	—	"	"	37.5	1,990
"	"	34.0	650	"	"	—	—	"	"	37.8	1,700
"	"	32.4	500	"	"	—	—	"	"	31.9	1,970
"	"	38.0	800	"	"	—	—	"	"	26.9	540
"	"	38.6	750	"	マサバ	29.5	—	30	アカムツ	27.8	560
"	ムツ	24.6	—	"	"	31.0	—	"	"	28.2	590
"	"	23.6	—	"	"	28.0	—	"	アヤマカサゴ	36.5	1,540
"	アカムツ	28.0	—	"	"	32.5	—	"	"	28.5	730
"	キツネメバル	20.8	—	"	"	31.7	—	33	トラザメ	50	610
"	"	20.6	—	"	"	28.8	—	"	シイラ	62	2,310
"	ウスメバル	25.5	—	"	チビキ	38.2	850	"	チビキ	66	2,600
"	アヤマカサゴ	28.8	—	"	"	40.8	1,100	"	"	52	2,440
"	"	38.0	1,500	"	"	44.4	1,500	"	ムツ	34	580
"	"	25.8	—	"	"	39.0	950	"	"	32	440
"	"	22.6	—	"	"	38.2	750	"	"	31	430
"	"	22.0	—	"	"	39.0	950	"	"	32	470
"	"	23.2	—	"	"	34.6	700	"	メダイ	54	2,920
"	"	23.8	—	"	アヤマカサゴ	23.6	—	"	ウスメバル	28	370
"	"	39.2	1,500	28	マサバ	43.0	840				
"	"	29.0	—	"	"	26.0	290				
"	"	25.8	—	"	"	27.6	220				